

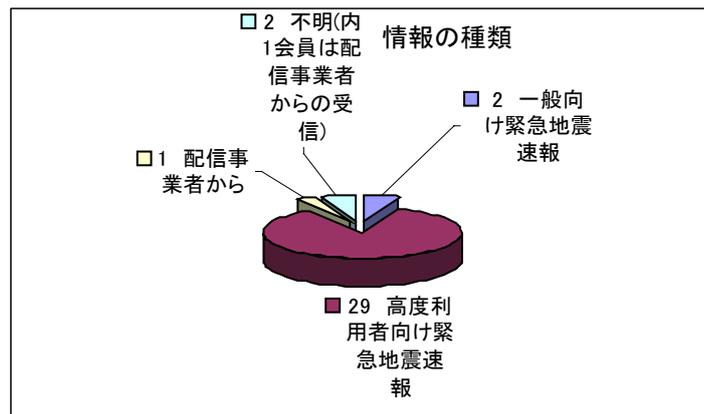
## 緊急地震速報のアンケートについて

平成 20 年 5 月 8 日(木)午前 1 時 45 分に茨城県沖で発生した M7.0(暫定値)の地震に対し、気象庁では昨年 10 月 1 日に一般向け緊急地震速報の提供開始以来、関東地方としては初の緊急地震速報の警報を発表しました。この地震で茨城県水戸市と栃木県茂木町で震度 5 弱を観測するなど、関東地方を中心に強い揺れを観測しました。緊急地震速報利用者協議会では、緊急地震速報の利用状況把握の観点から、会員各位(134 会員)に今回の緊急地震速報についてのアンケートを行い、34 の会員の方々に回答をいただきました。

以下に、アンケートの結果の概要を報告いたします。

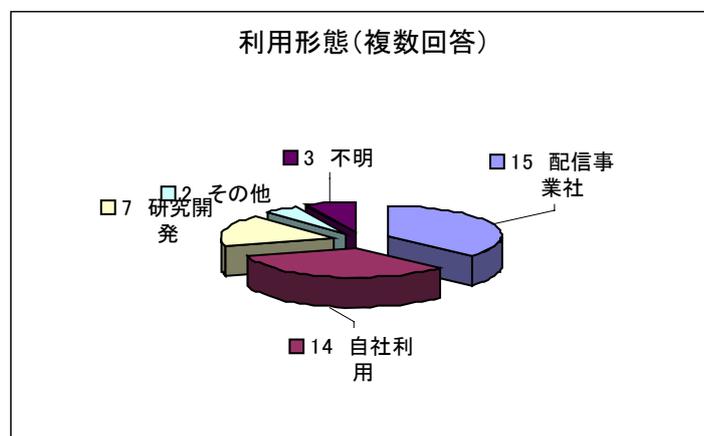
### (1) アンケート回答会員が利用している情報の種類

大部分が高度利用者向け緊急地震速報を活用されている会員の方々です。



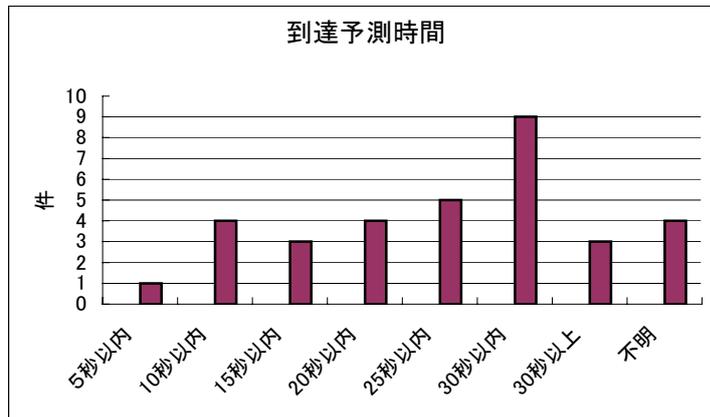
### (2) アンケート回答会員における緊急地震速報の主な利用形態

多い方から配信事業者(契約者への提供)、自社利用(機器製造を含む)、研究開発の順でした。

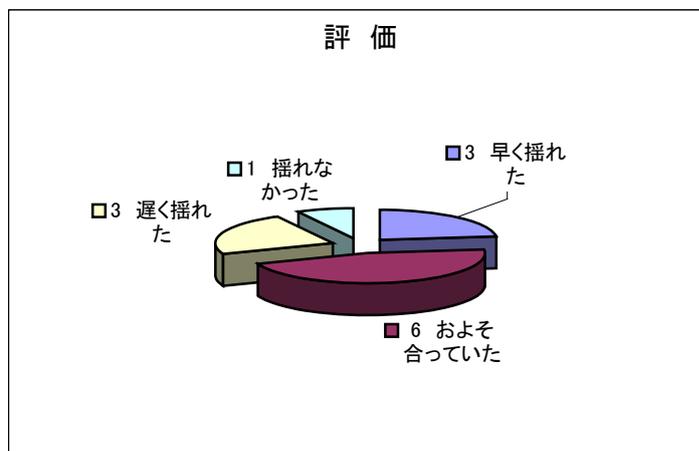


( 3 ) 到達予測時間と主要動到達時間

到達予測時間と主要動到達時間については 21 会員の方々から報告ありました。報告には 1 地点の評価から複数地点の評価があり、到達予測時間は 3 秒から 34 秒まであり、回答された会員の方々が開東一円に点在していることが推測されます。

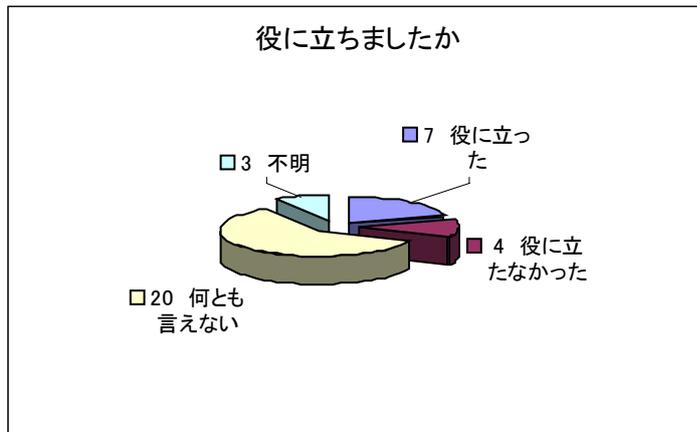


到達予測時間と実際に主要動が到達した時間との差については、「概ね合っていた」が多くありました。「遅く揺れた」とするものでは数秒から 12 秒の遅れがあったとの報告がありました。



( 4 ) 今回の緊急地震速報の有用性

役に立った ( 7 会員 ) 立たなかった ( 4 会員 ) 何とも言えない ( 20 会員 ) となっています。



#### 「役に立った」とする回答者からのコメントの内容等

今回の緊急地震速報は直接防災に役立つものではなかったが「高度利用者向け緊急地震速報は正常に機能することが確認でき、今後の防災への利用に対して有効である。」ということで、役に立ったという判断がなされたと思われます。

加えて、「地震動の来る前に緊急地震速報が発報できた。」「緊急地震速報のPRの機会が増えた。」「高度利用者向け緊急地震速報が正常に受信、提供できて安心した。」の声も寄せられました。これらの3件については、高度利用者向け緊急地震速報を使用しているため、利用者の事前の要望により、どの震度階級で報知するかを設定できることから、多くの利用者が気象庁の発表する警報の基準である震度5弱以上より低め(2~4、または全て)に設定しており、早い段階で情報を入手することができたためです。一例として、東京都内では25秒前後の猶予時間がとれ、カウントダウン表示が0秒になったときに揺れが来て非常に正確であったとの評価を得たとの報告もありました。

#### 「役に立たなかった」とする回答者からのコメントの内容等

緊急地震速報の警報の発表基準が震度5弱以上であり、気象庁での計算で、この震度が推定されるまで、約1分を要し、一般向け緊急地震速報は、既に多くの場所で揺れが到着してからの発表でした。

- ・ 緊急地震速報の警報発表が遅い。(一般向け緊急地震速報)
- ・ 携帯電話への配信が間に合わなかった。(一般向け緊急地震速報)

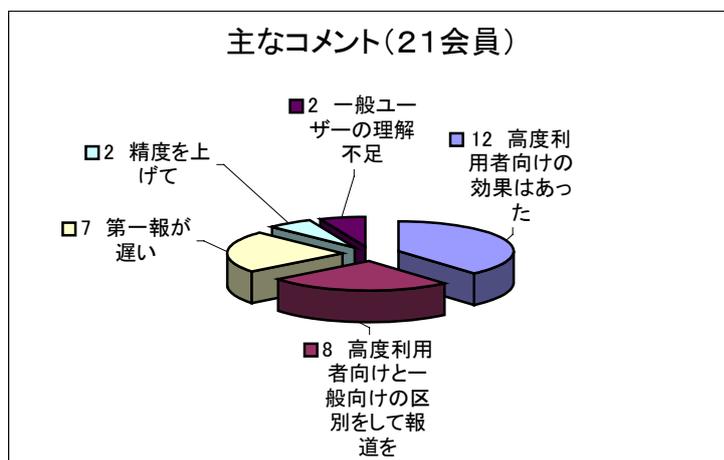
#### 「何とも言えない」とする回答者からのコメントの内容等

当該地震の発生時刻は午前1時45分の深夜ため、多くの利用者が端末設置場所にいなかったこともあり、情報の有効性への判断に至りませんでした。また、一般向け緊急地震速報と高度利用者向け緊急地震速報についての特質が広く理解されていない状況あり、これを解消する必要がある旨の意見がありました。このほか、具体的には、次のコメントが寄せられました。

- ・ 深夜で受信機から離れていた。
- ・ 最大震度判定に時間を要した。
- ・ 地震検知の初期におけるマグニチュードの推定精度が問題。

- ・ 一般向けと高度利用者向けに認知度に差があり、この点にも留意した PR が必要。

( 5 ) 今回の緊急地震速報を受信して、21 会員の方々から(3)を含むコメント等をいただきました。



個別には

- ・ 顧客からは、「揺れの到達に間に合わなかった」の意見があった。
- ・ 緊急地震速報は必ず「揺れる前に届く」と思っているユーザーが多い。
- ・ 高度利用者向け緊急地震速報の情報では、揺れの到達までに猶予時間があり、効果があった。
- ・ 高度利用者向け緊急地震速報は十分に機能を果たしている。
- ・ エンドユーザーから「揺れがくる前に的確に報じられた」の報告があった。
- ・ 配信事業者として更に二種類の緊急地震速報の特性の周知に努める。
- ・ 緊急地震速報（警報）が遅れたため、今後、高度利用者向け緊急地震速報の事業展開に影響することが懸念される。

気象庁に対する要望

- ・ 気象庁は一般向け緊急地震速報と高度利用者向け緊急地震速報について、別々の評価を公表することが必要である。
- ・ 気象庁等は一般向け緊急地震速報と高度利用者向け緊急地震速報の違いをもっと説明すべきである。一般向け緊急地震速報を捉えて「緊急地震速報は全て機能しない。」の報道もあった。
- ・ マグニチュードの値の推定精度により予測震度が大きく変わるので、この精度を上げてほしい。第 1 報の発表を早めて欲しい。発表の迅速化を望む。
- ・ 一般向け緊急地震速報の発表基準の見直しをして欲しい。例えば震度 4 から。
- ・ 揺れが到着してからの警報が発表されたため、その警報でさらに揺れがくるのではないと思ってしまった。既に揺れが到着した後の警報の発表のしかたの改善をすべきである。
- ・ 精度の検証や維持・改善のため評価用のデータセットを提供していただきたい。
- ・ 検知時間の短縮のため更なる地震計の設置を望む。